

ウプサラ大学 フレッド・ナイバーク教授が PSS を訪問

PSS 社員の前で、痛みのメカニズムについて講演

当社となじみの深いスウェーデンのウプサラ大学薬学部長、フレッド・ナイバーク教授が、11月10日、PSS 本社を訪問されました。ナイバーク教授は田島社長、高橋取締役、研究開発チームと共同プロジェクトの成果を確認、今後の協力関係についても話し合いがもたれました。この後、ナイバーク教授からは全社員を対象にして、痛みとその緩和メカニズムについて、わかりやすく講演をいただきました。

当社とナイバーク教授のお付き合いは、2004年6月に広州大学ゲノムセンターのオープニングセレモニーに招待された教授と田島社長が、研究開発での協力関係の可能性について意見交換したのが発端でした。2005年5月には、PSS とウプサラ大学の間で、共同研究プロジェクト協定が結ばれ、以来1年半にわたって、ウプサラ大が世界をリードする「疼痛」研究でのコラボレーションを進めてきました。



ウプサラ大学はスウェーデンの名門であり、創立が1477年という北欧最古の大学として知られていますが、その大学病院は疼痛問題を包括的に研究する医療機関としても高い評価されています。今回の共同研究では、疼痛を緩和するモルヒネなどの麻薬に対する受容性が患者によって大きく異なることに着目し、これが特定の遺伝子型に関係していることの解明を目的としています。この研究を遂行するために、ウプサラ大学が集めた貴重なサン

プルについて、PSSの自動装置（12GC）と三次元マイクロアレイ（ハンディ・バイオストランド）を用いて解析が進められ、大きな成果が得られました。9月には、この成果がトルコと上海において学会で発表されています。

今回のSNPs解析共同研究プロジェクトは、本年末でいったん終了しますが、教授とPSSの協力関係は今後とも続けられることが両者間で確認されており、さらなる展開も期待されます。



ナイバーグ教授は当社訪問の翌日は、初来日となる夫人とともに東京を観光、次の日には晩秋の京都に向かわれました。